

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】令和 2 年 1 月 16 日 (2020.1.16)

【公開番号】特開 2018-101118 (P2018-101118A)

【公開日】平成 30 年 6 月 28 日 (2018.6.28)

【年通号数】公開・登録公報 2018-024

【出願番号】特願 2016-248558 (P2016-248558)

【国際特許分類】

G 0 3 B 5/00 (2006.01)

G 0 3 B 17/02 (2006.01)

H 0 4 N 5/225 (2006.01)

H 0 4 N 5/232 (2006.01)

【F I】

G 0 3 B 5/00 J

G 0 3 B 17/02

H 0 4 N 5/225 D

H 0 4 N 5/232 Z

【手続補正書】

【提出日】令和 1 年 11 月 27 日 (2019.11.27)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

被写体像を撮像する撮像素子を有する撮像装置であって、
被写体側の前面とその反対側の背面とを有し、前記前面に前記撮像素子が実装された撮像素子基板と、
前記撮像装置の振れを検出する振れセンサとを有し、
前記振れセンサは、前記撮像素子基板の前記背面に実装されていることを特徴とする撮像装置。

【請求項 2】

前記振れセンサは、前記撮像素子基板の前記背面のうち周辺領域よりも中心側の領域に実装されていることを特徴とする請求項 1 に記載の撮像装置。

【請求項 3】

前記撮像素子基板は、前記撮像素子に電源を供給するための第 1 の電源パターンと前記被写体像を形成する撮像レンズユニットに電源を供給するための第 2 の電源パターンとを有し、

前記振れセンサは、前記撮像素子基板の前記背面のうち前記第 1 および第 2 の電源パターンに対して基板厚み方向において重ならない領域に実装されていることを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の撮像装置。

【請求項 4】

前記撮像素子基板を保持する保持部材と、該保持部材を保持するベースユニットとを有し、

前記保持部材は、弾性部材を介して前記ベースユニットにより保持されていることを特徴とする請求項 1 から 3 のいずれか一項に記載の撮像装置。

【請求項 5】

前記振れセンサの出力を用いて前記撮像装置を制御するコントローラが実装された制御基板を有し、

前記制御基板は、前記ベースユニットにより保持されており、

前記制御基板と前記撮像素子基板とがフレキシブル配線板によって接続されていることを特徴とする請求項 4 に記載の撮像装置。

【請求項 6】

前記振れセンサは、互いに直交する 3 つの軸回りでの前記振れを検出することを特徴とする請求項 1 から 5 に記載の撮像装置。

【請求項 7】

前記振れセンサは、角速度センサであることを特徴とする請求項 1 から 6 のいずれか一項に記載の撮像装置。